

事例 24 題材「鑑賞・作品との対話から」～見て、感じ取り、自分の言葉で発信する力の育成～

風景版画今昔 ＜葛飾北斎と鈴木英人＞

美術 第3学年
石川県立金沢錦丘中学校・教諭

1 事例の概要

本校では、今年度の学校研究テーマである「PISA型読解力の育成」を目指して各教科で実践に取り組んだ。美術科では、鑑賞における言葉による表現力の向上を図るために、造形言語を用いた言葉で表現する鑑賞活動を設定した。作品を見る視点を整理し、気付いたことや感じ取ったことを言葉で表すことによって作品の見方や感じ方を豊かにしていくことがねらいであるが、造形言語を重視した「言葉による表現活動」が、絵画や彫刻・デザインや工芸などの表現活動にもフィードバックされると考えた。表現と鑑賞を関連付けながら、創造的な行為として鑑賞活動を積極的に行い、生徒が自分なりの価値をもって作品を鑑賞し、他者の見方や感じ方を尊重し、鑑賞を深められるようにしたい。

本事例では、非連続テキストである美術作品を鑑賞し〔情報の取り出し〕、鑑賞した題材について気付いたことや感じ取ったことを造形言語を駆使して表すこと〔解釈〕、意見交流で自分の解釈に新たな見方や考え方を加えて統合的に判断すること〔熟考・評価〕をもとに、【鑑賞の能力】における「確かな学力」を身に付けさせることができたかについて考察した。

A-1 学校研究

2 実践内容

(1) 題材の目標

- ・ 版画作品を味わい、作品に対する自分の解釈と他者の解釈を比較し、鑑賞活動の広がりを楽しもうとする。 【美術への関心・意欲・態度】
- ・ 版画作品の特徴とよさや美しさを自分なりに捉え、その根拠を造形言語（主題・構図・色彩・形・技法などの造形要素を表す言葉）で表現し、コミュニケーションを通じて視野を広げながら、作品に対する見方・感じ方を深める。 【鑑賞の能力】

(2) 指導上の工夫点

① 題材の精選

- ・ 生徒も必ず目にしたことがある「葛飾北斎の富嶽三十六景」を選定
- ・ 「赤富士」による自然現象と版画表現との比較
- ・ 「凱風快晴」の初摺りと後摺りの比較と分析
- ・ 現代版画「鈴木英人の作品」との比較

② 作品の提示方法

- ・ ICT機器（ソフト面：画像表示ソフト、ハード面：電子情報ボード等）の活用と工夫

③ 作品資料の活用

- ・ 作品集等の書籍資料を活用した図書館との連携

B-1 指導上の工夫点

3 指導の実際

時間 (分)	学 習 内 容・活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 【観 点】(評 価 方 法)
5	・浮世絵版画を鑑賞し、気付いたことや感じ取ったことを発表する。	葛飾北斎の作品を鑑賞しよう。 ・気付いたことや感じ取ったことを自由に発表させる。	・浮世絵版画に関心をもち、よさを味わおうとする。 【美術への関心・意欲・態度】 (行動観察)
10	・浮世絵版画を鑑賞し、気付いたことや感じ取ったことを書く。	造形要素に注目して 気付いたことを書こう。 ・〈主題〉〈構図〉〈色彩〉〈形〉〈技法〉などに着目して考えさせる。	・作品の特徴を自分なりに捉え、その根拠を造形言語を用いて使って表す。【鑑賞の能力】 (ワークシート)
10	・気付いたことや感じ取ったことを発表しあう。	・意見交流の場を設け、造形的な要素を意識して表すことができるようにする。	
15	・浮世絵版画と現代版画の共通点と相違点を見つける。	浮世絵版画と現代版画の共通点と相違点を見つけよう。 ・同じ富士山を扱ったシルクスクリーン版画と比較し、表現の違いに気付かせ、それぞれの表現のねらいを味わえるようにする。	・浮世絵版画と現代版画を見比べて、共通点と相違点に気付き、それぞれのよさを味わおうとする。 【美術への関心・意欲・態度】 (行動観察)
5	・学習のふりかえりをする。		

C-1 指導案

C-2 ワークシート

C-3 作品資料

4 成果と課題

(1) 成果

葛飾北斎について、ほとんどの生徒は名前は知っていたが、作品については詳しくは知らないという生徒が多く、浮世絵という日本の代表的な版画に生徒がどのような反応を示すか興味深いものがあった。最初に「山下白雨」を取り上げ、あえて事前に作品を解説せずに生徒の率直な感想を聞いたところ、山肌の色や雷の描写に関心が集まったが、それ以上の深まりは見られなかった。次の「凱風快晴」では、実際の自然現象である『赤富士』の写真を見せたことに強い反応が見られ、それを作品にした北斎の浮世絵に強い関心を示した。さらに、初摺りと後摺りのどちらも本物の「凱風快晴」を見せ、その違いを見比べながら鑑賞のポイントを示した。造形言語による感想がどの程度見られるかが焦点であったが、予想以上の言葉による表現が見られた。構図の面白さ・色彩の変化・形の特徴についての感想や、初摺りと後摺りの違いと好みについての意見も幅広く見られた。さらにこの活動を受けて、富士山を共通題材とした現代版画のシルクスクリーン作品との比較では、色彩や描写方法の違いに注目した意見が多く見られた。二次では、画集から好きな作品を選んで鑑賞カードを書く活動を行ったが、造形言語による表現が感想に活かされており、取り組み前と比較すると抽象的な表現の感想が減少し、より具体的な言葉の表現による感想が増加した。

(2) 課題

造形言語による表現は普段の授業でも心がけていることだが、生徒に実際どの程度意識付けられているのかは判断が難しいところであった。今回の取り組みから、造形言語を活用する学習が反映されていることを確かめることができたが、今後も造形言語の意識を高めていき、また作品を読み解く力身につけさせていくために、表現活動・鑑賞活動の両面からの働きかけを続けなければならない。

D-1 考察